

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所
2022年度 パフォーマンス向上会議情報(2023年2月20日(月)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。
法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2023年2月20日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【高性能多核種除去設備移送制御盤電源用プラグの差し込み不足について】 当社社員が、免震重要棟の制御盤にて、「増設多核種除去設備(C)工程異常」および「高性能多核種除去設備故障」警報が発生し、増設多核種除去設備(C)が自動停止したことを確認。 現場調査の結果、増設多核種除去設備(C)には異常がないことを確認。 そのため、増設多核種除去設備(C)の運転条件に、高性能多核種除去設備の運転状態の条件も入力されているため、待機状態であった高性能多核種除去設備移送制御盤を確認した。 当該制御盤の電源用プラグが完全に差し込まれていなかったことが確認できたため、当該プラグを押し込み確認したところ、各警報が解除され、その後、増設多核種除去設備(C)の運転を再開。 このことから、当該制御盤の電源用プラグの差し込み不足が原因であると判断。 今後、同様な制御盤について、プラグの状態確認を実施予定。</p>	GⅢ	2月16日
2	<p>【建屋内淡水化装置(B)の還元剤注入ポンプ(B)吐出配管の詰まりについて】 当社社員が、建屋内淡水化装置(B)還元剤(※)注入配管をろ過水により洗浄するために、還元剤ポンプ(B)を運転したところ、注入配管の安全弁が動作したことを確認。 現場調査の結果、吐出配管が何らかの要因により詰まったため、配管内の圧力が上昇したことにより、注入配管の安全弁が動作したものと推定。 なお、還元剤注入は冬期(水温20℃未満の期間)に運転を休止していることから、建屋内淡水化装置(B)の運転に影響なし。 今後、当該配管を点検予定。</p> <p>※還元剤:重亜硫酸ソーダ</p>	GⅢ	2月15日